資料３

令和８年度　多様な主体間における連携・協働による
『避難生活支援・防災人材育成エコシステム』構築の具体化に向けた検討会

令和８年熊本地震の対応について

経緯等

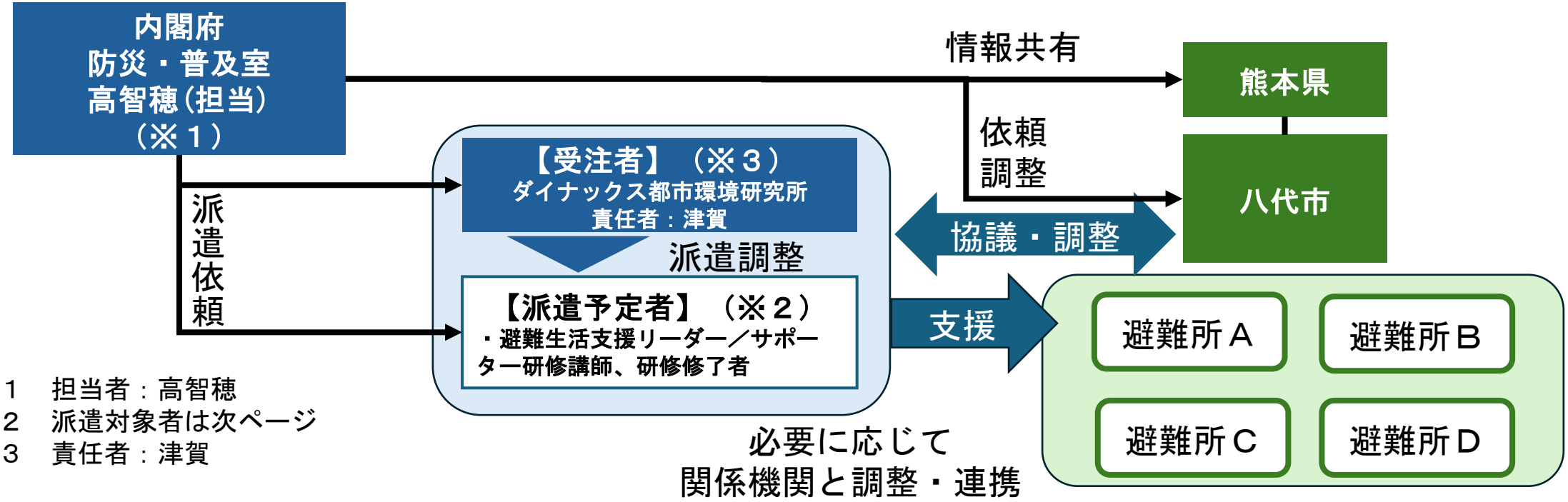
- 7月28日に発生した令和8年熊本地震の被災地では、様々な事情から、避難所、車中泊、被災した家屋等で避難生活が余儀なくされている状況が続く状況にあった
- 避難所では、環境整備をはじめとした様々な課題が生じており、 緊急を要する対応や災害関連死につながりかねない状況も発生している。

- このような状況に置かれている熊本県から八代市内における避難所の運営支援等の支援要請を受けたくまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）を通じ、栗田暢之氏（エコシステム検討会座長）から内閣府にLS研修関係者の人員派遣等の申し出があり、対応について内閣府と関係者との協議を行った。

- 協議の結果、避難所における運営支援のために、講師・アシスタント講師の派遣調整を進めることになった。
- 8月上旬段階では、避難所の状況、宿泊先や移動手段の確保など様々な事情から、多くの方を受け入れすることが困難だったため、LS講師で熊本市のソナエトコ・水野代表を中心に、現地入りしていたレスキューストックヤードの浦野氏、ピースボート災害支援センターの辛嶋氏と協議して、対応を進めることになった。

当初の派遣イメージ

（１）派遣調整等の関係図



※１　担当者：高智穂
※２　派遣対象者は次ページ
※３　責任者：津賀

（２）想定している支援

①避難所の環境整備
・避難所のアセスメント、TKBの導入・運用支援、衛生管理、各種生活支援等
②避難所の自主運営の支援
・避難者の役割等の相談、調整、避難者同士の話し合いの支援、運営関係者との協議、調整等
※八代市・避難所運営に関わる運営者、専門職等と協議しながら支援を展開する想定

8月の派遣者

【現地総括】

1	水野　直樹	ソナエトコ　理事長

【県外からの派遣対象者】

1	浦野　　愛	レスキューストックヤード　常務理事	8/8～8/31
2	辛嶋　　友香里	ピースボート災害支援センター　国内災害事業　現地コーディネーター	8/8～8/25
3	佐藤　純	Hand Over Japan 代表理事	8/7～8/12
4	園田　將人	瀬戸内市　成長戦略部市政推進課　主任	8/8～8/11
5	斎藤　容子	関西国際大学　客員教授	8/8～8/12
6	山脇　歩子	ピースボート災害支援センター	8/13～8/16
7	工藤　美佐	山口県災害看護研究会　副代表	8/14～8/18
8	加藤鮎美	東京大学大学院医学系研究科　災害看護専門看護師	8/18～8/23
9	伊藤　リカ	福岡災害レジリエンス研究室　研究員	8/22～8/29
10	鶴木　由美子	難民支援協会（JAR）　定住支援部　チームリーダー	8/23～8/29
11	合田　茂広	ピースボート災害支援センター　理事	8/26～8/29
12	頼政　　良太	被災地NGO協働センター　代表／大手前大学現代社会学部　講師	8/27～8/30

◆ 上記のメンバーのみで対応するのではなく、レスキューストックヤード、ピースボート災害支援センターのボランティアスタッフと連携して、活動を展開
◆ ＪＶＯＡＤ、ＫＶＯＡＤ、熊本ＹＭＣＡ、内閣府、支援チームメンバーで定期的に情報共有の機会を設ける

八代市・避難生活災害支援チームの概要

目的

被災地の避難所に対して、避難所の運営に携わる方々と連携しながら、避難所の環境整備と住民の主体的運営にむけた支援を図る

体制

内閣府から派遣された
「避難生活支援リーダー／サポーター研修」の講師、修了生　※

役割

- 避難所のアセスメント
- 避難所の環境整備（物資等の提供・運用等の支援）
- 避難所運営に関わる関係機関との情報共有
- 要配慮者の把握と関係機関へのつなぎ　等

※避難所の集約・統合にあわせ必要となる支援を展開予定



現場を見て、つなぎ、改善する

※
内閣府では、令和4年度より、「災害関連死ゼロ」を目指して、**避難所の生活環境向上に率先して取組むことができる地域人材**（避難生活支援リーダー／サポーター）を育成するための研修を全国で展開（令和7年度末現在、25府県52市町村で実施、約2,200名が受講）、令和5年度には八代市で実施（ほか宇土市、菊陽町、多良木町でも実施）
研修講師は、**避難所運営支援や被災者支援を経験を有するNPO等**が担っている（NPO職員、日赤・看護師、福祉施設職員、社協職員、自治体職員等、全国80名程度に依頼）